

学修成果検証アンケート調査 報告書

(平成 30 年度～令和 2 年度卒業生及び就職先企業対象)

令和 4 年 7 月

新潟大学

はじめに

新潟大学では、教育成果を検証することを目的に、3年に1回、学修成果検証アンケートを実施しております。このアンケートは、卒業後1年目から3年目までの卒業生を対象にしているもので、平成30年度から令和2年度までの卒業生と就職先の企業を対象としたアンケート調査となります。本報告書はその概要です。

新潟大学は「自律と創生」を理念に学士課程教育を実施していますが、本アンケート調査は、卒業して実社会で働いている方々が、大学で受けた教育をどのようにみているか（自己評価）、そして採用された企業は本学卒業生をどのようにみているか（他者評価）の両面から、本学の教育の質を検証し、今後の教育改善に活かすことを目的としたものです。この形式でのアンケート調査も6回目となり、18年分のデータが蓄積されています。この度の調査は平成28年度から始まった第3期中期計画を踏まえ、前5回の調査項目から大幅に見直しを図り実施しました。

自己評価と他者評価とを直接比較することは難しいですが、卒業生は概ね企業側が見るより厳しく自分を見ているようで、この傾向は前回調査とも一致しています。一方、大学時代に受けた教育に対するご意見の中には肯定的なものだけでなく、厳しいものもありました。得られたデータをいかに教育改善に活かしていくかは喫緊の課題ととらえております。

教育課程は学問的要請だけでなく、社会的要請の側面からも検討され、修正改善されていかなければならないものです。本学では養成すべき人材像を4つの教育目標領域、すなわち「知識・理解」、「当該分野固有の能力」、「汎用的能力」、「態度・姿勢」として明示しました。

学士課程で身に付けた力（学士力）が、その後の社会でどのように活かされているのか、より高い資質・能力を身に付けた学士を輩出するためには、教育課程の何をどう改善していけばよいのか。皆様方からいただいた貴重なご意見を踏まえ、学位プログラムにおけるメジャー（主専攻）とマイナー（副専攻）はもとより、課外活動を含めた本学学士課程教育の一層の改善と充実を図っていく所存です。

ご多用の中、本学の調査にご協力くださいました卒業生の皆様、企業の皆様に感謝と御礼を申し上げます。

新潟大学教育・学生支援機構長 坂本 信

目次

調査概要	4
調査の目的	4
調査対象	5
調査時期	5
調査手続き	5
調査項目	5
調査結果	6
回答者（卒業生）の属性	6
回答者（企業等）の属性	8
大学時代の授業科目の履修状況と現在感じる社会での有用性	9
新潟大学への進学理由と満足度、及び社会的評価	14
リカレント教育（学び直し）に対する希望	15
新潟大学に対する企業等からの期待	18

調査概要

調査の目的

新潟大学は、大学全体のディプロマポリシーの中で、枠内に示したような人材育成目標を掲げています。本学の提供する教育が、こうした目標に照らして、成果を上げているのかを検証するため、卒業生を対象とした調査（卒業生調査）と卒業生の就職先の企業・自治体等を対象とした調査（企業等調査）を3年毎に実施しています。

卒業生調査では、主に本学での学びを振り返りながら、目標に掲げる資質や能力がどの程度身についたと思うか、またそれらの資質や能力が実社会の中でどの程度必要とされているかを尋ね、目標への到達度に関する主観的評価を得ることが目的です。

企業等調査では、各組織で採用した新潟大学の卒業生について目標に掲げる資質や能力がどの程度身についていると思うか、またそれらの資質や能力が実社会の中でどの程度必要とされているのかを尋ね、目標への到達度に関して採用者の視点から評価を得ることが目的です。

人材育成目標

本学の理念「自律と創生」に基づき、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、高い見識と良識をもって社会や時代の諸問題に的確に対応し、課題解決のために活躍できる人材を育成します。

そのため、各教育課程の中で、以下の資質・能力を養成します。

「知識・理解」

自己の専門分野における基本的な知識を体系的に理解しているとともに、知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然の事象と関連付けて理解している。

「当該分野固有の能力」

自己の専門分野に係る課題を設定し、主体的に知識・技能を修得し、それらを活用して課題を探究することができる。

「汎用的な能力」

言語・データサイエンス・ICTのスキル・リテラシーを主体的に修得し、それらを活用して多様な方法で情報を収集、分類・整理するとともに、論理的思考を用いて自己の考えを構築し効果的に発信することができる。

「態度・姿勢」

社会の諸問題に関心を持ち、自律的な学びと豊かなコミュニケーション能力に支えられた他者との協働による課題解決を通して、地域社会や国際社会に貢献しようとする態度を備えている。

調査対象

卒業生調査は、平成 30 年度から令和 2 年度までに卒業した学部学生 7,059 名を対象とし、596 名から回答を得た（回収率 8.44%）。

また企業等調査は、過去 3 年間に 5 名以上の採用実績のある企業や団体を対象とし、92 の組織から回答を得た。

調査時期

調査対象となる卒業生に、令和 3 年 12 月に調査目的及び調査参加への依頼を通知した。調査期間は令和 4 年 1 月 31 日までとした。

企業等調査は同年 12 月に郵送にて調査目的とアンケートへの回答の依頼文とともにアンケート用紙を送付した。調査期間は令和 4 年 1 月 31 日までとした。

調査手続き

卒業生調査はオンラインで実施した（調査依頼文書、調査フォームアクセス URL を記載）。

企業等調査は、返信用封筒を添え、アンケート用紙を郵送により回収した。

調査項目

卒業生調査

①現居住地、②卒業年度、③性別、④出身地、⑤卒業学部、⑥主専攻プログラム、⑦業種、⑧職務内容、⑨転職の有無、⑩在学中の授業履修状況、⑪社会における授業の有用性、⑫在学中に身についた資質・能力（知識・理解、当該分野固有の能力、汎用的な能力、態度・姿勢）とその実社会における必要性、⑬新潟大学への進学理由、⑭卒業満足度、⑮新潟大学の実社会での評価、⑯学び直し（意欲、理由、内容、プログラムの形式、授業実施形態、時間帯）、⑰本学の教育に対する意見・要望

企業等調査

①各組織における新潟大学卒の在職者数、②過去 3 年間の新大卒採用者数、③卒業生に身についている資質・能力（知識・理解、当該分野固有の能力、汎用的な能力、態度・姿勢）とその実社会における必要性、④大学に期待すること、⑤従業員の学び直しに関すること

調査結果

卒業生調査と企業等調査は、対象は異なるが共通の質問項目もあり、卒業生の回答と企業等の回答の比較も可能である。そのため、以下では、共通項目について同一のグラフ等で示す部分と、各々の調査に固有の項目について単独で示す部分がある。

回答者（卒業生）の属性

表1 卒業年度と性別のクロス表

		性別			
		女性	男性	回答したくない	合計
				い	
卒業年度	平成30（2018）年度	71	58	1	130
		54.6%	44.6%	0.8%	100.0%
	令和元（2019）年度	86	71	1	158
		54.4%	44.9%	0.6%	100.0%
	令和2（2020）年度	151	154	3	308
		49.0%	50.0%	1.0%	100.0%
合計		308	283	5	596
		51.7%	47.5%	0.8%	100.0%

回答者の卒業年度の内訳は、平成30年度130名、令和元年度158名、令和2年度308名であった。

また、女性は308名（51.7%）、男性は283名（47.5%）、回答したくない者が5名（0.8%）であった。

表 2 出身地と現居住地のクロス表

		現居住地					
		北海道・東北					合計
		新潟県	北地方	関東地方	中部地方	近畿以南	
出身地	新潟県	217	5	39	5	8	274
		79.2%	1.8%	14.2%	1.8%	2.9%	100.0%
	北海道・東北地方	25	67	25	2	4	123
		20.3%	54.5%	20.3%	1.6%	3.3%	100.0%
	関東地方	20	3	66	4	1	95
		21.1%	3.2%	69.5%	4.2%	1.1%	100.0%
	中部地方	14	2	15	54	1	87
		16.1%	2.3%	17.2%	62.1%	1.1%	100.0%
	近畿以南	9	2	1	0	5	17
		52.9%	11.8%	5.9%	0.0%	29.4%	100.0%
合計		285	79	146	65	19	596
		47.8%	13.3%	24.5%	10.9%	3.2%	100.0%

回答者のうち、47.8%が新潟県内に居住しており、次いで関東地方が24.5%、北海道・東北地方が13.3%、中部地方が10.9%と続いた。近畿以南は3.2%であり、海外居住者も0.3%（2名）いた。

出身地は新潟県が46.0%ともっとも多かったが、北海道・東北地方が20.6%、関東地方が15.9%、中部地方が14.6%、近畿以南が2.9%であった。

現居住地と出身地のクロス表を作成して出身地と現居住地がどのように変化したか概要がわかる。回答者の79.2%は、新潟県出身であり現在も県内に居住している。県内出身者のうち14.2%は、現在は関東地方で暮らしている。

回答者（企業等）の属性

表3 組織の業種及び新潟大学の卒業生の在職

業種	アンケート回答 組織数	新大卒在職者数 (在職者数/組 織)	うち大学院修 了者数(割 合)	新大新卒 採用数 (2019- 2021)
農業・林業	1	19 (19)	8 (42%)	3
建設業	8	250 (31)	46 (18%)	54
製造業	19 (18)	696 (39)	297 (43%)	89
電気・ガス・熱 供給・水道業	3	190 (63)	73 (38%)	29
情報通信業	8	442 (55)	203 (46%)	64
運輸業・郵便業	2	53 (27)	1 (2%)	11
卸売業・小売業	7 (6)	333 (56)	25 (8%)	65
金融業・保険業	11	712 (65)	4 (1%)	66
不動産業・物品 賃貸業	1	10 (10)	0 (0%)	2
学術研究・専 門・技術サービ ス業	2	61 (31)	17 (28%)	10
生活関連サービ ス業・娯楽業	1	10 (10)	0 (0%)	4
医療・福祉	4 (2)	54 (27)	9 (17%)	24
サービス業（他 に分類されない もの）	2	46 (23)	1 (2%)	7
公務	22	1767 (80)	185 (10%)	267
その他	1	20 (20)	1 (5%)	11
全体	92 (87)	4663 (54)	870 (19%)	706

※アンケート回答組織数の（ ）は新大卒在職者数に回答した組織数

表3は、アンケート対象となった組織の業種とそれらの業種ごとに回答が得られた組織の数及び新潟大学の卒業生（大学院生含む）が当該組織に在職している人数等を示した。

回答を返送した組織の卒業生は、合わせて4,663名であり、そのうちの約2割（870名）は大学院卒である。このアンケートへの回答組織としては、「公務」が組織数も在職者数も最も多かった。次いで、在職者数が多いのは、「金融・保険業」、「製造業」、「情報通信業」などである。

アンケートに回答した組織の中で、「公務」はこの3年間の新卒採用数も最も多かった。なお、実際に、本学の学生がどのような業種に就いているか、その実数は、毎年度編纂されている「新潟大学データブック」に掲載されている。就職者が多い業種の区分は、今回のアンケート結果と類似している。

大学時代の授業科目の履修状況と現在感じる社会での有用性

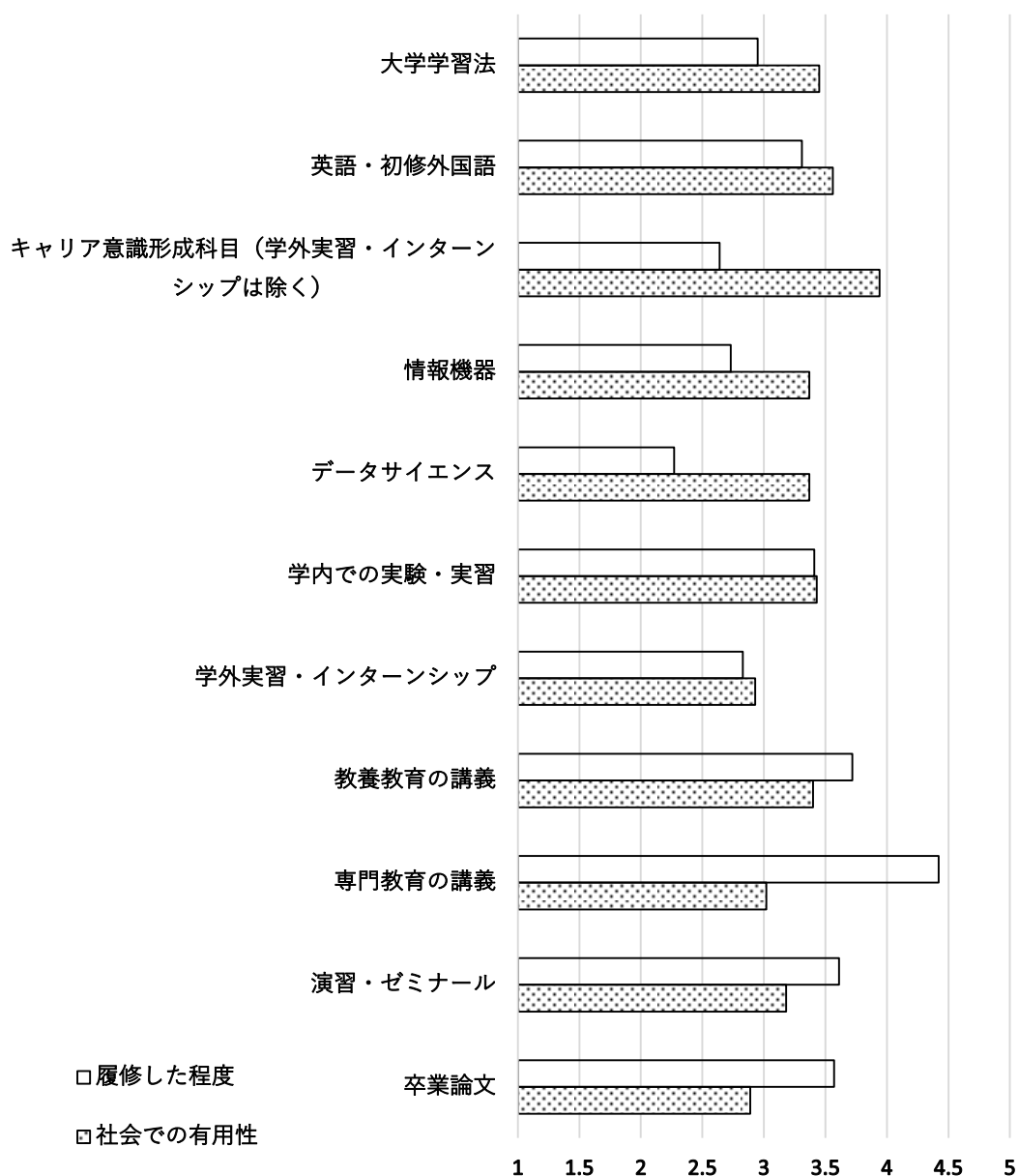


図1 大学時代の授業科目の履修状況と現在感じる社会での有用性

新潟大学で受けた授業についてどの程度履修したか、社会に出てからどの程度有用であったかを尋ねた（図1）。「専門教育の講義」はもっともよく履修されていたが、社会に出てからの有用度は相対的に高くはなかった。一方、「キャリア意識形成科目（学外実習・インターンシップは除く）」は履修した程度はそれほど高くなかったが、社会での有用度は高いと評定された。「データサイエンス」もこれと同様のパターンであった。

社会での有用性は、おそらく仕事や身の回りの事柄の処理にとって役立つか否かで判断されたと思われる。その観点では確かに直接的な有用性が高くない科目もあっただろう。しかし、専門科目の講義の有用性は、社会の持続可能性や知識の伝承、人間の発展・発達といった観点からも

評価することによって、傾向が変化する可能性が考えられる。

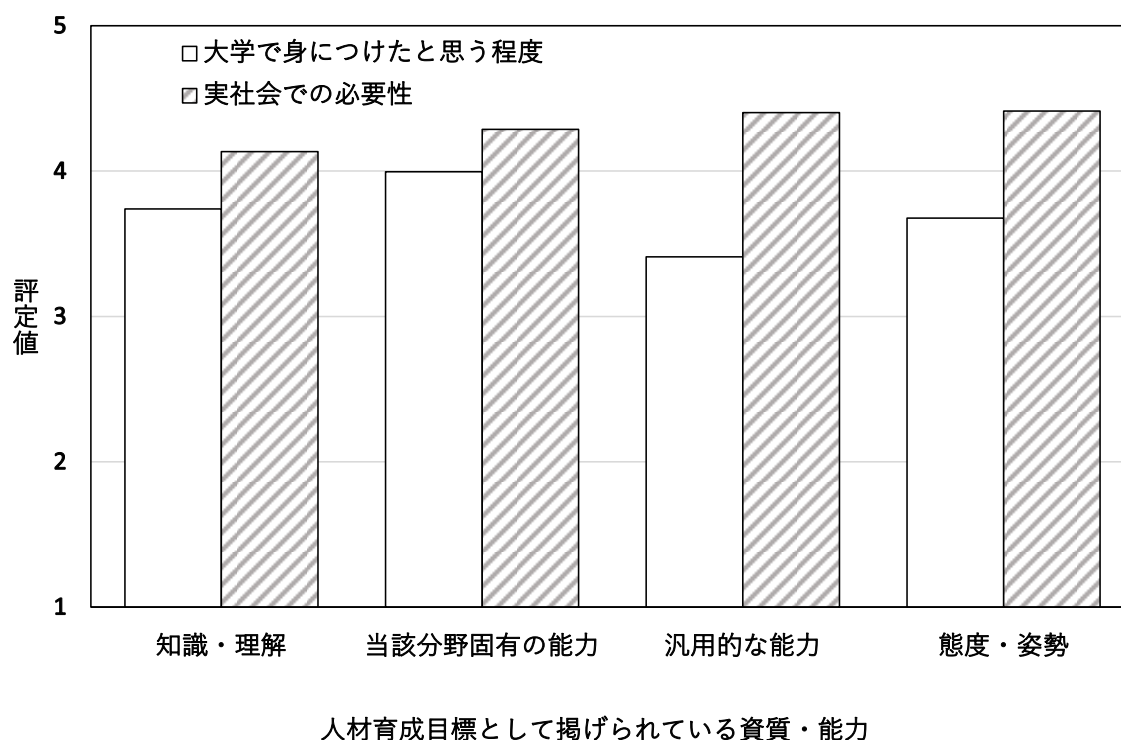


図2 新潟大学の人材育成目標に関する自己評価と実社会における必要性（卒業生）

図2は「知識・理解」（3項目）、「当該分野固有の能力」（2項目）、「汎用的能力」（8項目）、「態度・姿勢」（7項目）の各項目について、大学で身につけたと思う程度と実社会で必要な程度を卒業生に尋ね、その回答の平均値を算出して表した。

各項目の知識や能力が身につけている程度は、「身につけている」が5点、「ある程度身につけている」が4点、「どちらともいえない」が3点、「あまり身につけていない」が2点、「身につけていない」が1点である。実社会で必要な程度は、「大変必要である」が5点、「やや必要である」が4点、「どちらともいえない」が3点、「あまり必要でない」が2点、「全く必要でない」が1点である。

平均値からみると、4つの資質・能力とも概ね「ある程度身につけている」と評価されている。

しかし、実社会で必要な程度については、「汎用的能力」と「態度・姿勢」が高く評定されており、大学で身につけたと思う程度との差異が相対的に大きく、追いついていない状態である。

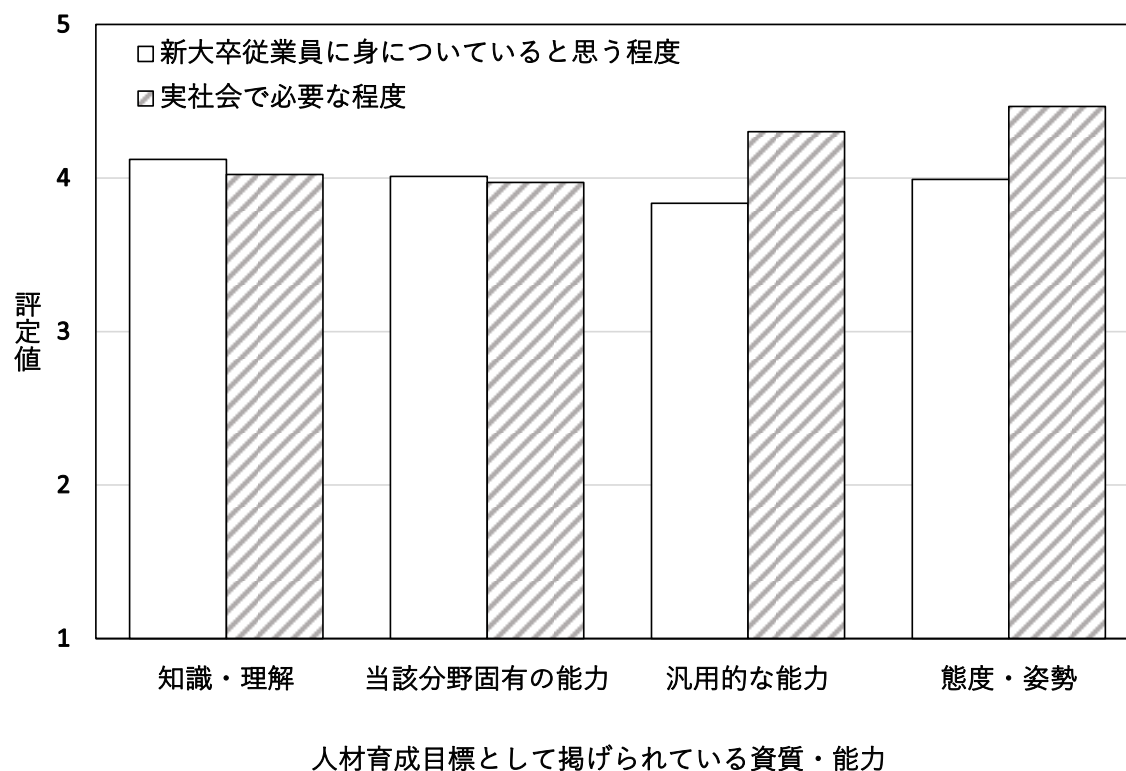


図3 新潟大学の人材育成目標に関する評価と実社会における必要性（企業等）

図3は、同じ項目について、新大卒の従業員に身についていると思う程度と実社会で必要な程度を企業等に尋ねた結果である。

身についている程度の平均値は4.0前後であり、総じて高く評価された。卒業生の回答と同様、「汎用的能力」と「態度・姿勢」の身についている程度は、実社会で必要な程度よりも低かったが、卒業生自身の評価よりは高い傾向があった。

図4・図5は、それぞれ卒業生、企業等の調査における、新潟大学の人材育成目標を細分化した項目ごとの値を示している。実社会で必要とされている程度がどちらの調査においても比較的高かったのは、汎用的能力の「日本語による文章表現力」、「コミュニケーションおよび議論する力」、「一般的な課題の発見・解決能力」、態度・姿勢の「自律的な学ぶ姿勢」、「他者と協働する姿勢」、「良識（モラル・倫理観・責任感）」であった。

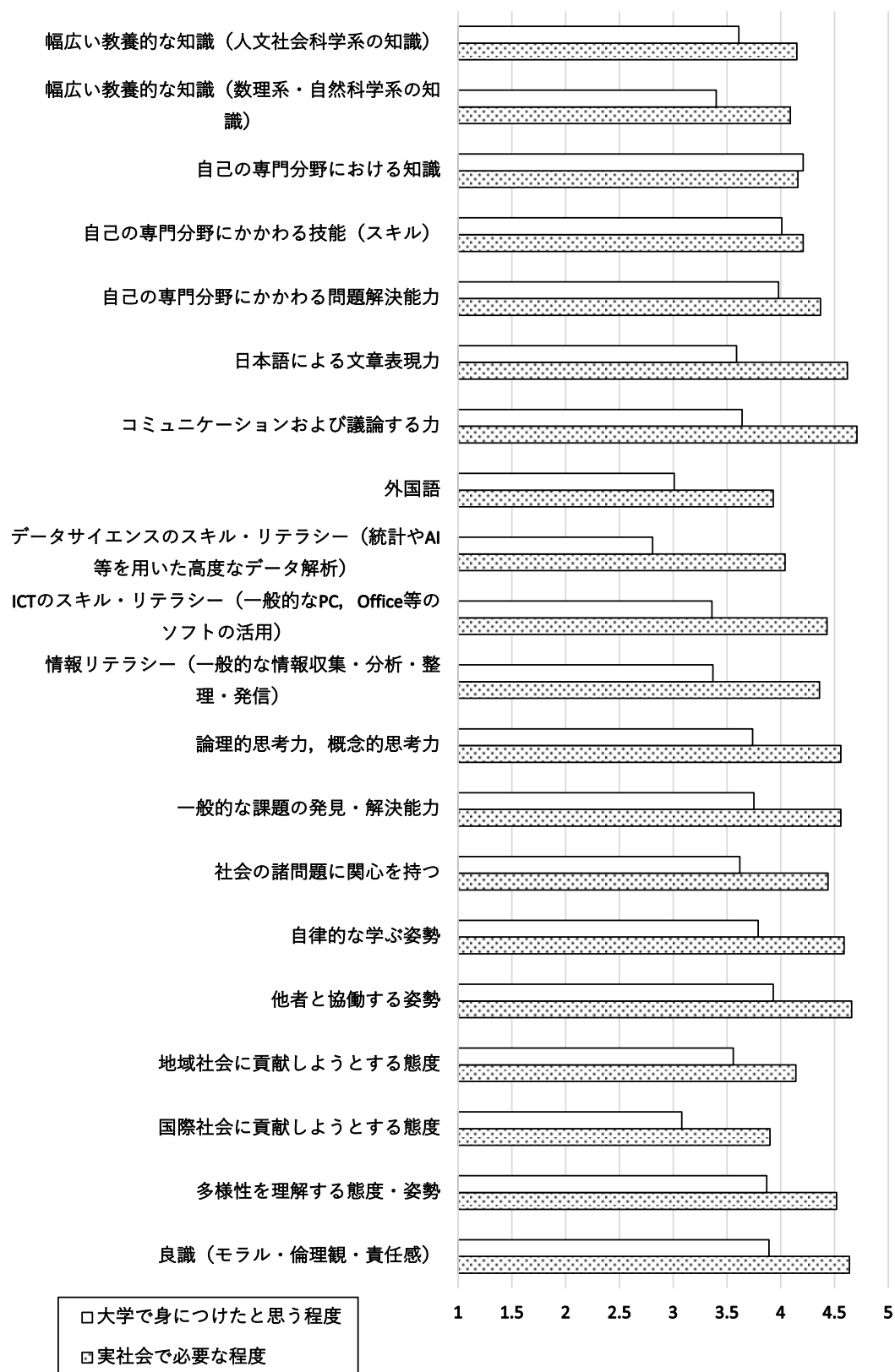


図4 新潟大学の人材育成目標（詳細）に関する自己評価と実社会における必要性（卒業生）

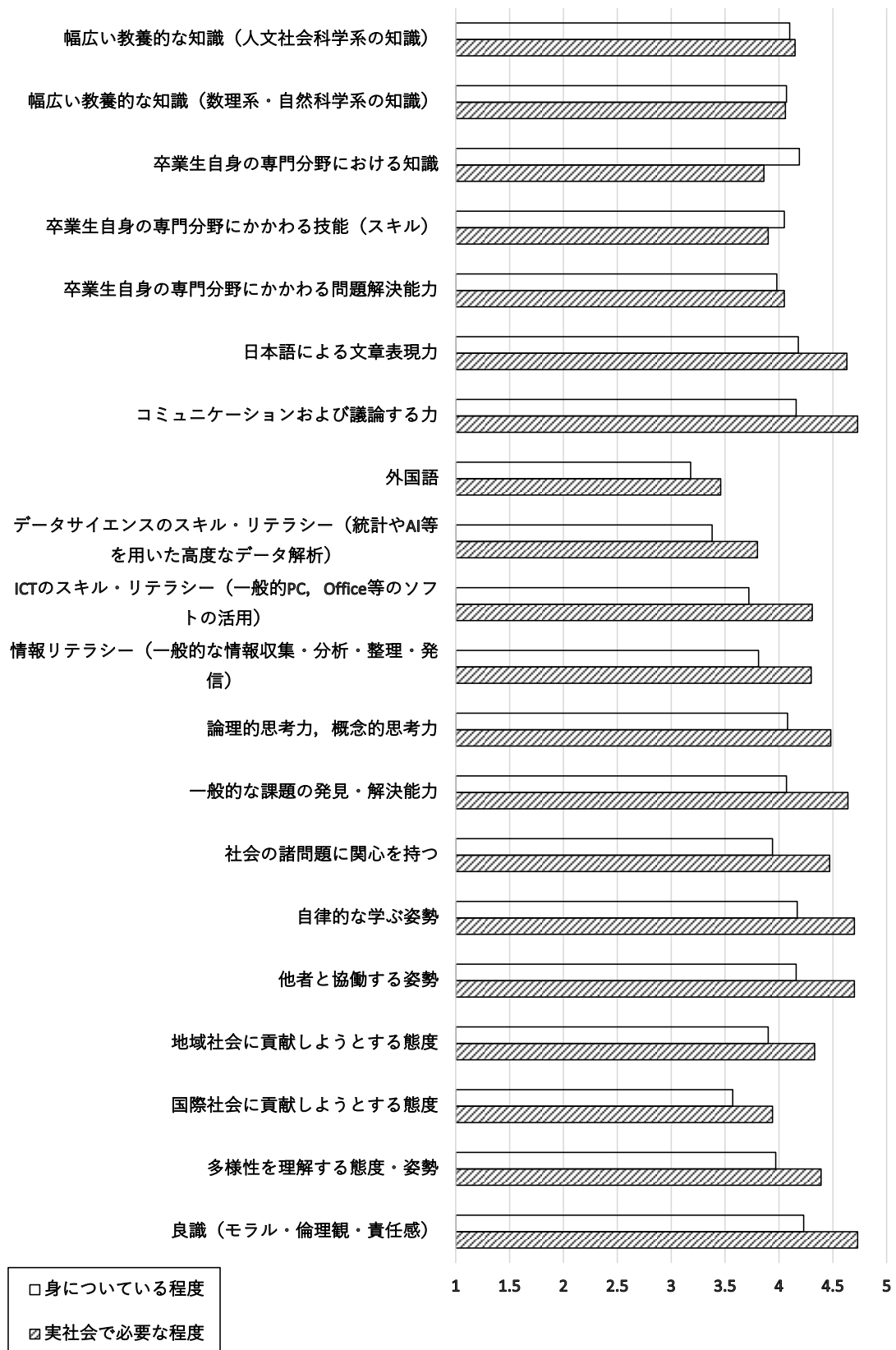


図5 新潟大学の人材育成目標（詳細）に関する評価と実社会における必要性（企業等）

新潟大学への進学理由と満足度及び社会的評価

卒業生調査では、新潟大学への進学理由を尋ねた。図6の項目について、進学理由として当てはまる程度を回答してもらった。

「国立大学だから」が最も高く、「希望する学部があったから」、「自分の学力に合っていたから」が続いている。

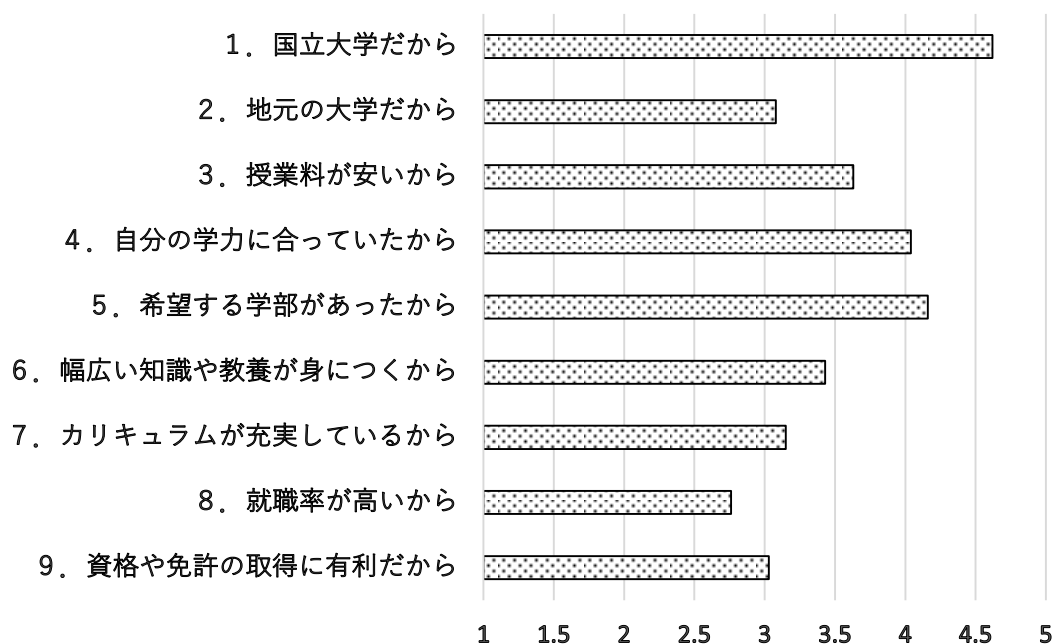


図6 新潟大学への進学理由

卒業生調査では、新潟大学を卒業したことについての満足度と新潟大学の社会的評価についても尋ねた。満足度は5段階で、1（全く満足していない）、2（あまり満足していない）、3（どちらともいえない）、4（やや満足している）、5（大変満足している）の中から1つを選択してもらった。

図7はこれらを1～5点として全体の平均値を算出した値である。5点が最大値であるところ、4.38という値で、選択肢の割合としては「やや満足している」が39.3%、「大変満足している」が51.5%、合わせて90.8%が満足していると回答した。調査に回答した卒業生たちの満足度はかなり高かったといえる。

一方、新潟大学の実社会での評価が高いと思うか、1（全くそう思わない）、2（あまりそう思わない）、3（どちらともいえない）、4（ややそう思う）、5（大変そう思う）の5段階で尋ねた。

図7ではこれらを1～5点として全体の平均値を算出した値も示した。5点が最大値であるところ3.64という値で、選択肢の割合としては「ややそう思う」が49.2%、「大変そう思う」が14.3%、合わせて63.5%が、本学の実社会での評価が高いと回答した。

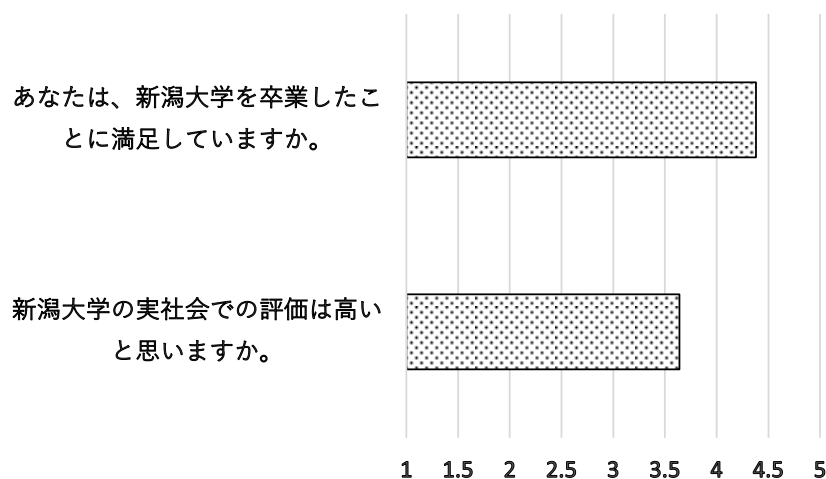


図7 新潟大学の満足度と社会的評価

リカレント教育（学び直し）に対する希望

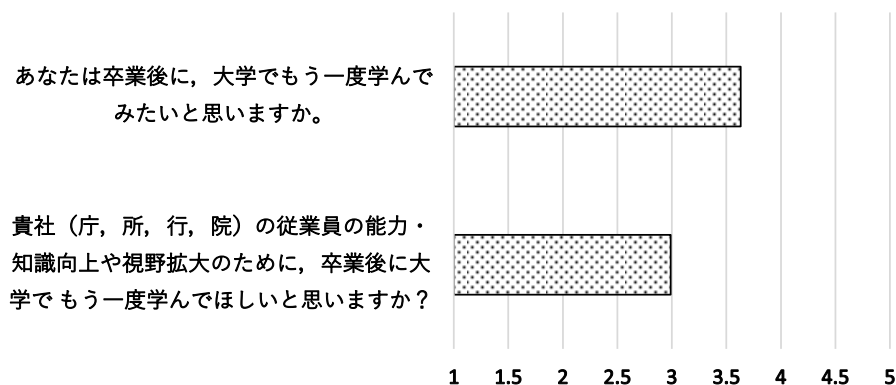


図8 学び直しに関する評価

新潟大学ビジョン2030を実現するための具体策や中期目標中期計画において、リカレント教育（学び直しのための教育）の推進が掲げられている。図8に、学び直しに関する評価を卒業生及び企業等からの回答の平均値を示した。

卒業生調査では、大学でもう一度学んでみたいか、企業等調査では従業員にもう一度学んでほしいかを、1（全くそう思わない）、2（あまりそう思わない）、3（どちらともいえない）、4（ややそう思う）、5（大変そう思う）の5段階で尋ねた。

卒業生は、大学でもう一度学んでみたいかという質問に対し、「ややそう思う」が39.3%、「大変そう思う」が24.2%、合わせて63.5%がもう一度学んでみたいと回答した。1点から5点に点数化した平均値としては3.63であった。

企業等は、従業員にもう一度学んでほしいかという質問に対し、「ややそう思う」が17.4%、「大変そう思う」が3.3%、合わせて20.7%がもう一度学んでほしいと回答した。1点から5点に点数化した平均値としては2.99であった。本調査に回答した企業等が従業員に学び直しを求める気持ちはそれほど高くはなかった。

一方、図9に企業等が従業員に学んでほしい、あるいは卒業生が学びたい具体的な内容に対する回答の平均値を示した。従業員に学んでほしいと回答した企業等の中で、学んでほしい内容として希望が強かったのは、「AI・データサイエンス分野」、「経済・経営学分野（経済、会計、組織、マーケティングなど）」であった。

卒業生には学びたいか否かの回答にかかわらず全員にもう一度学びたい内容を尋ねた。ほとんど内容は企業等が学んでほしいと考えているよりも値は低かった。大きな差ではないが、人文学部分野（文学、哲学、歴史、心理など）だけは、企業等が学んでほしいと考えるよりも卒業生たちが学びたいと回答した。

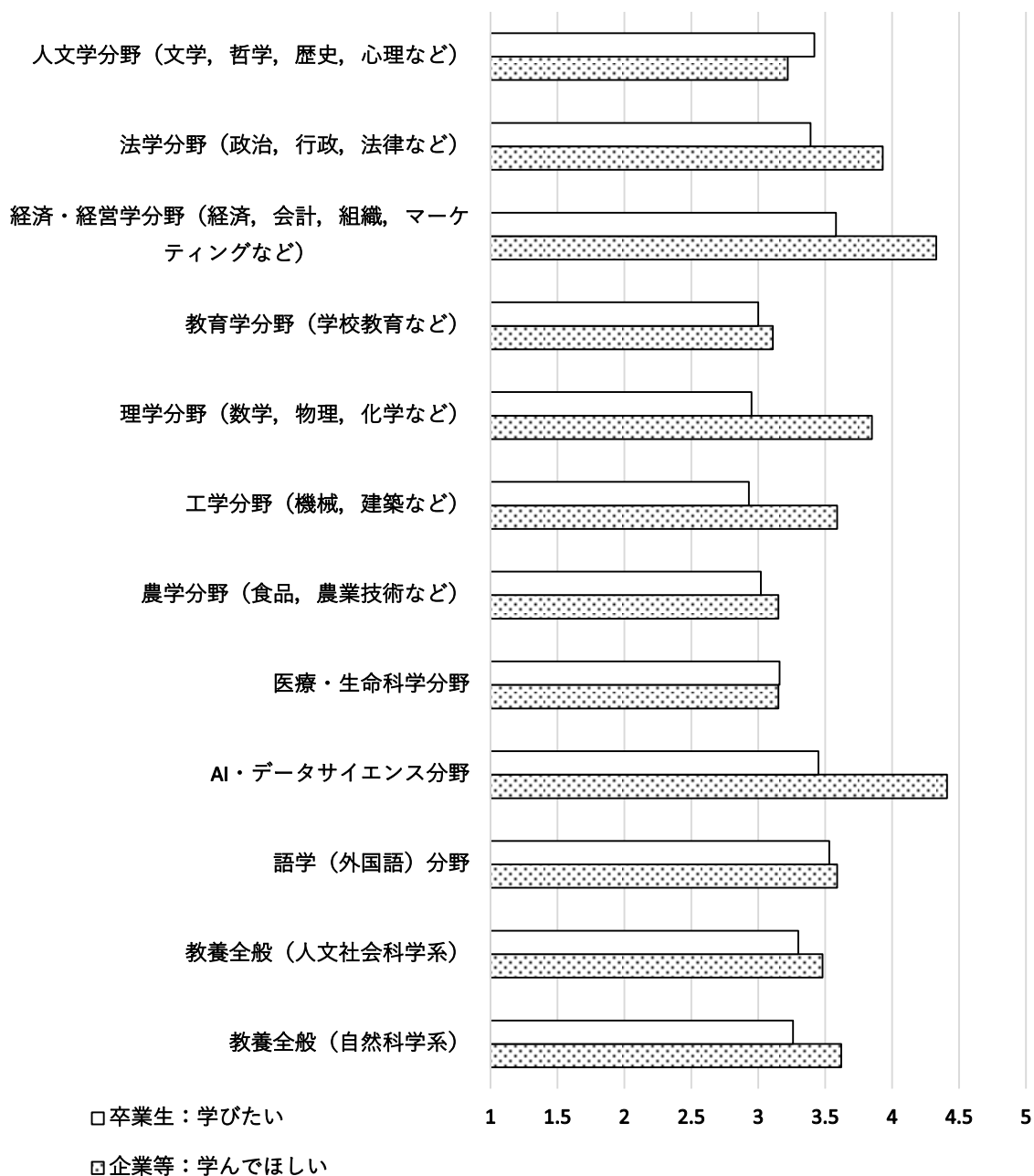


図9 学んでほしい、あるいは学びたい具体的な内容

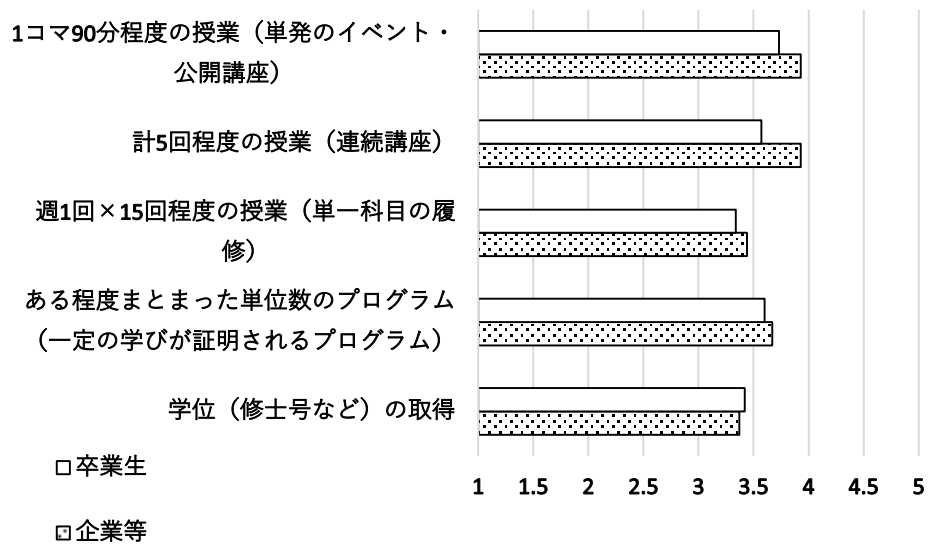


図 10 リカレント教育を受ける場合の教育プログラムの形式

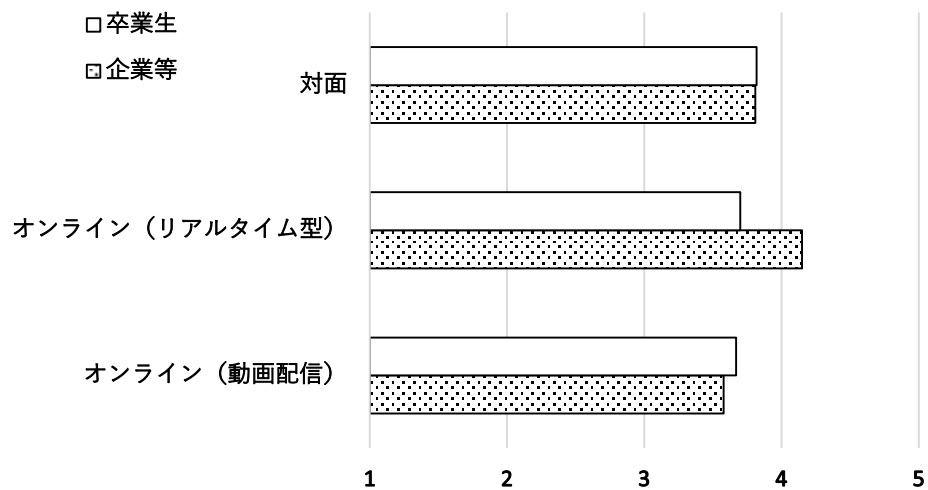


図 11 リカレント教育を受ける場合の授業形式

リカレント教育を受ける場合の教育プログラムの形式について尋ねた。形式による違いはそれほど大きくはなく、また卒業生と企業等の間でも希望する形式のパターンに顕著な違いはみられなかった。全体としては、図 10 のように、1 コマ 90 分の単発の授業や 5 回程度の連続講座のように、短時間・短期間で終わるものへの希望が相対的に強い。

遠隔授業か対面かという授業形式の違いについて、卒業生は大きな違いはなかったが、企業等はリアルタイム型のオンラインを望む気持ちが相対的に強い（図 11）。

また、リカレント教育を受ける時間帯については、卒業生、企業等とも平日夜または土曜・日曜への希望が強い。特に企業等では平日夜を望んでいた。

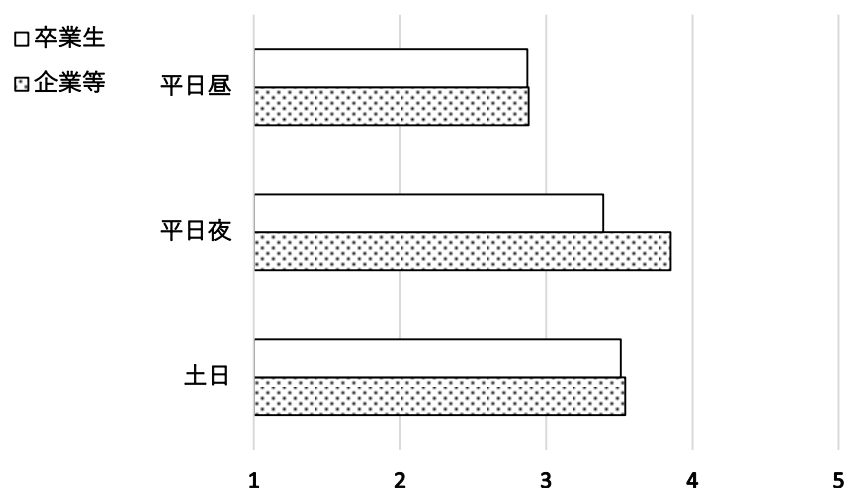


図 11 リカレント教育を受ける場合の時間帯

新潟大学に対する企業等からの期待

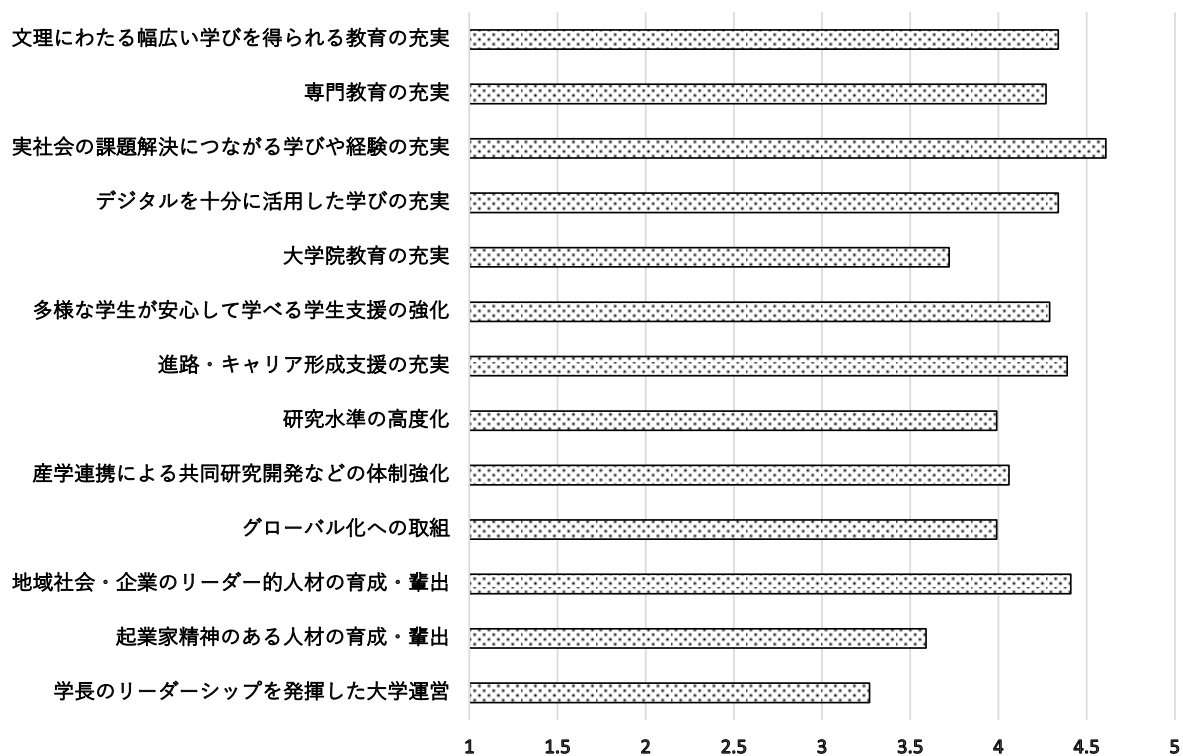


図 12 企業等の新潟大学に対する期待

企業等調査では、新潟大学に対しての期待について尋ねた。もっとも期待されていることは、「実社会の課題解決につながる学びや経験の充実」であった。「地域社会・企業のリーダー的人材の育成・輩出」、「進路・キャリア形成支援の充実」にも高い期待が寄せられている。

新潟大学 卒業生アンケート 教育成果の 検証

本アンケート調査は、新潟大学が学士課程における教育の成果を検証する等の目的で実施するものです。今回は、平成30（2018）年度から令和2（2020）年度までの卒業生の方々にお願いしています。

この種の調査におきましては、回収率が低いと有効な参考情報を抽出することができませんので、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、是非、ご協力いただきたく、よろしくお願い致します。

本調査は無記名で回答いただくものであり、調査結果につきましては、上記の目的以外には一切使用いたしません。

令和4年1月

新潟大学

本調査票への記入に当たって、あらかじめ留意していただく事項

◆ 設問は、問1から問17まであります。問1から順に回答してください。ただし、該当する一部の方にのみ答えていただくような設問もありますので、指示に従って回答願います。

◆ 「その他」を選ばれた場合には、当該選択肢の直後に設けた記述欄（[]で指示しています）に簡潔に内容を記入してください。

◆ 回答は、令和4年1月31日までに、入力してください。

◆ なお、本調査に関する「問い合わせ等」につきましては、お手数ですが下記までお願い致します。

新潟大学 学務部教務課

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050

TEL：025-262-6303

FAX：025-262-6304

電話受付時間： 平日 9：00から16：30まで

*必須

1。 セキュリティコード（入力されているものを編集しないでください） *

基本情報

2。 問1. あなたは現在どちらにお住まいですか。 *

1つだけマークしてください。

☐ 新潟県内

☐ 北海道地方

☐ 東北地方

☐ 関東地方

☐ 中部地方（新潟県以外）

☐ 近畿地方

☐ 中国地方

☐ 四国地方

☐ 九州・沖縄地方

☐ 海外

3。 問2. あなたの卒業年度はいつですか。 *

1つだけマークしてください。

☐ 平成30（2018）年度

☐ 令和元（2019）年度

☐ 令和2（2020）年度

4。 問3. あなたの性別を教えてください。 *

1つだけマークしてください。

☐ 女性

☐ 男性

☐ その他

☐ 回答したくない

5. 問4. あなたのご出身はどこですか。 *

1 つだけマークしてください。

- ☐ 新潟県内
- ☐ 北海道地方
- ☐ 東北地方
- ☐ 関東地方
- ☐ 中部地方（新潟県を除く）
- ☐ 近畿地方
- ☐ 中国地方
- ☐ 四国地方
- ☐ 九州・沖縄地方
- ☐ 海外

6. 問5. あなたが卒業された学部はどちらですか。 *

1 つだけマークしてください。

- ☐ 人文学部
- ☐ 法学部
- ☐ 経済学部
- ☐ 教育学部／教育人間科学部
- ☐ 理学部
- ☐ 工学部
- ☐ 農学部
- ☐ 医学部医学科
- ☐ 医学部保健学科
- ☐ 歯学部
- ☐ 創生学部

7. 問6. あなたが卒業された主専攻プログラムはどちらですか。 *

1 つだけマークしてください。

- ☐ 心理・人間学
- ☐ 社会・地域文化学
- ☐ 歴史文化学
- ☐ 日本アジア言語文化学
- ☐ 西洋言語文化学
- ☐ メディア・表現文化学
- ☐ 初等教育
- ☐ 中等教育
- ☐ 特別支援教育
- ☐ 学習社会ネットワーク
- ☐ 生活科学
- ☐ 健康スポーツ科学
- ☐ 芸術環境創造
- ☐ 法学
- ☐ 経済学
- ☐ 経営学
- ☐ 数学
- ☐ 物理学
- ☐ 化学
- ☐ 生物学
- ☐ 地質科学
- ☐ 自然環境科学
- ☐ フィールド科学人材育成（理）
- ☐ 医学教育
- ☐ 看護学
- ☐ 放射線技術科学
- ☐ 検査技術科学
- ☐ 歯学教育
- ☐ 口腔生命福祉学
- ☐ 機械システム工学教育
- ☐ 電気電子工学科教育
- ☐ 情報工学

- ☐ 福祉人間工学
- ☐ 化学システム工学
- ☐ 社会基盤工学
- ☐ 建築学
- ☐ 機能材料工学
- ☐ 電子情報通信
- ☐ 知能情報システム
- ☐ 材料科学
- ☐ 人間支援感性科学
- ☐ 協創経営
- ☐ 食料・資源経済学
- ☐ 植物生産学
- ☐ 動物生産学
- ☐ 応用生物化学
- ☐ 森林環境学
- ☐ 農業工学
- ☐ 応用生命科学
- ☐ 食品科学
- ☐ 生物資源科学
- ☐ 流域環境学
- ☐ フィールド科学人材育成（農）
- ☐ 創生学修

- 8。 問7. あなたの現在のお仕事あるいは状況は、主として次のどれに該当しますか。
*

1 つだけマークしてください。

- ☐ 会社員
- ☐ 公務員・団体職員
- ☐ 自営
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 専業の主婦・主夫
- ☐ 無職
- ☐ 大学院生
- ☐ その他: _____

- 9。 問8. あなたのお仕事の内容は、主として次のどれに当てはまりますか。（該当する方のみお答えください） *

1 つだけマークしてください。

- ☐ 管理的職業（管理的公務員，会社・団体の役員，管理職員 など）
- ☐ 専門的・技術的職業（研究者，技術者，医師，歯科医師，看護師，医療技術者，弁護士，公認会計士，教員 など）
- ☐ 事務的職業（一般事務，会計事務，営業・販売関連事務 など）
- ☐ 販売の職業（商品販売，販売類似（不動産仲介人，保険代理人など），営業 など）
- ☐ サービスの職業（介護サービス，生活衛生サービス（美容師など），接客・給仕 など）
- ☐ 保安の職業（自衛官，警察官，消防員 など）
- ☐ 農林漁業の職業
- ☐ 生産工程の職業（生産設備制御・監視（オペレーターなど），製品製造・加工処理，機械組立など）
- ☐ 建設・採掘の職業（建設，電気工事，土木，採掘 など）
- ☐ 運搬・清掃・包装等の職業

10. 問9. あなたは卒業直後に就いた職業から、転職されましたか？ *

1つだけマークしてください。

- ☐ 転職した
- ☐ 転職していない
- ☐ その他: _____

問10. 新潟大学で受けた授業について、それぞれをどの程度履修しましたか？ また、社会に出てからどのようなものが有用であったと思いますか。以下の項目のそれぞれについて、該当するものを選んでください。

11. 問10-1. どの程度履修しましたか。 *

1行につき1つだけマークしてください。

	大変多く履修した	やや多く履修した	どちらともいえない	あまり履修しなかった	ほとんど履修しなかった
大学学習法	☐	☐	☐	☐	☐
英語・初修外国語	☐	☐	☐	☐	☐
キャリア意識形成科目 (学外実習・インターンシップは除く)	☐	☐	☐	☐	☐
情報機器	☐	☐	☐	☐	☐
データサイエンス	☐	☐	☐	☐	☐
学内での実験・実習	☐	☐	☐	☐	☐
学外実習・インターンシップ	☐	☐	☐	☐	☐
教養教育の講義	☐	☐	☐	☐	☐
専門教育の講義	☐	☐	☐	☐	☐
演習・ゼミナール	☐	☐	☐	☐	☐
卒業論文	☐	☐	☐	☐	☐

12. 問10-2. 社会に出てからどのようなものが有用であったと思いますか。 *

1行につき1つだけマークしてください。

	大変有用であった	やや有用であった	どちらともいえない	あまり有用ではなかった	全く有用ではなかった
大学学習法	☐	☐	☐	☐	☐
英語・初修外国語	☐	☐	☐	☐	☐
キャリア意識形成科目 (学外実習・インターンシップは除く)	☐	☐	☐	☐	☐
情報機器	☐	☐	☐	☐	☐
データサイエンス	☐	☐	☐	☐	☐
学内での実験・実習	☐	☐	☐	☐	☐
学外実習・インターンシップ	☐	☐	☐	☐	☐
教養教育の講義	☐	☐	☐	☐	☐
専門教育の講義	☐	☐	☐	☐	☐
演習・ゼミナール	☐	☐	☐	☐	☐
卒業論文	☐	☐	☐	☐	☐

問11. 新潟大学で受けた講義、演習等で、特に有用だったと思うことがあればお書きください。

13. 授業科目名

14. 授業の内容・方法

問12. 新潟大学で次のような知識や能力などがどのくらい身についたと思いますか。また、これらの知識や能力は実社会で活躍する上でどの程度必要だと思いますか。以下の項目のそれぞれについて、該当するものを1つ選んでください。

15. 問12-1-1. 新潟大学でどのくらい身についたと思いますか（知識・理解）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変よく 身につ いたと 思う	やや身 につ いたと 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 身 に つ か な か っ た と 思 う	全 く 身 に つ か な か っ た と 思 う
1－1）幅広い教養的な知識（人文社会科学系の知識）	☐	☐	☐	☐	☐
1－2）幅広い教養的な知識（数理系・自然科学系の知識）	☐	☐	☐	☐	☐
1－3）自己の専門分野における知識	☐	☐	☐	☐	☐

16. 問12-1-2. 新潟大学でどのくらい身についたと思いますか（当該分野固有の能力）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変よく 身につ いたと 思う	やや身 につ いたと 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 身 に つ か な か っ た と 思 う	全 く 身 に つ か な か っ た と 思 う
2－1）自己の専門分野にかかわる技能（スキル）	☐	☐	☐	☐	☐
2－2）自己の専門分野にかかわる問題解決能力	☐	☐	☐	☐	☐

17. 問12-1-3. 新潟大学でどのくらい身についたと思いますか（汎用的な能力）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変よく 身についた と思う	やや身 についたと 思う	どちら ともい えない	あまり身 につかなか ったと思う	全く身につ かなかった と思う
3－1）日本語による文章表現力	☐	☐	☐	☐	☐
3－2）コミュニケーションおよび議論する力	☐	☐	☐	☐	☐
3－3）外国語	☐	☐	☐	☐	☐
3－4）データサイエンスのスキル・リテラシー（統計やAI等を用いた高度なデータ解析）	☐	☐	☐	☐	☐
3－5）ICTのスキル・リテラシー（一般的なPC, Office等のソフトの活用）	☐	☐	☐	☐	☐
3－6）情報リテラシー（一般的な情報収集・分析・整理・発信）	☐	☐	☐	☐	☐
3－7）論理的思考力, 概念的思考力	☐	☐	☐	☐	☐
3－8）一般的な課題の発見・解決能力	☐	☐	☐	☐	☐

18. 問12-1-4. 新潟大学でどのくらい身についたと思いますか（態度・姿勢）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変よく身 についたと 思う	やや身 についたと 思う	どちら ともい えない	あまり身につ かなかったと 思う	全く身につ かなかったと 思う
4－1）社会の諸問題に関心を持つ	☐	☐	☐	☐	☐
4－2）自律的な学ぶ姿勢	☐	☐	☐	☐	☐
4－3）他者と協働する姿勢	☐	☐	☐	☐	☐
4－4）地域社会に貢献しようとする態度	☐	☐	☐	☐	☐
4－5）国際社会に貢献しようとする態度	☐	☐	☐	☐	☐
4－6）多様性を理解する態度・姿勢	☐	☐	☐	☐	☐
4－7）良識（モラル・倫理観・責任感）	☐	☐	☐	☐	☐

19. 問12-2-1. 実社会でどの程度必要だと思いますか（知識・理解）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変必要 であると思 う	やや必要 であると思 う	どちらと もいえな い	あまり必要 でないと思 う	全く必要 ないと思 う
1－1）幅広い教養的 な知識（人文社会科学 系の知識）	☐	☐	☐	☐	☐
1－2）幅広い教養的 な知識（数理系・自然 科学系の知識）	☐	☐	☐	☐	☐
1－3）自己の専門分 野における知識	☐	☐	☐	☐	☐

20. 問12-2-2. 実社会でどの程度必要だと思いますか（当該分野固有の能力）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変必要 であると思 う	やや必要 であると思 う	どちらと もいえな い	あまり必要 で無いと思 う	全く必要 で無いと思 う
2－1）自己の専門 分野にかかわる技能 （スキル）	☐	☐	☐	☐	☐
2－2）自己の専門 分野にかかわる問題 解決能力	☐	☐	☐	☐	☐

21. 問12-2-3. 実社会でどの程度必要だと思いますか（汎用的な能力）＊

1行につき1つだけマークしてください。

	大変必要 であると思 う	やや必要 であると思 う	どちらと もいえな い	あまり必要 でないと思 う	全く必要 ないと思 う
3－1）日本語による 文章表現力	☐	☐	☐	☐	☐
3－2）コミュニケー ションおよび議論する 力	☐	☐	☐	☐	☐
3－3）外国語	☐	☐	☐	☐	☐
3－4）データサイエ ンスのスキル・リテラ シー（統計やAI等を用 いた高度なデータ解 析）	☐	☐	☐	☐	☐
3－5）ICTのスキ ル・リテラシー（一般 的なPC, Office等のソ フトの活用）	☐	☐	☐	☐	☐
3－6）情報リテラシ ー（一般的な情報収 集・分析・整理・発 信）	☐	☐	☐	☐	☐
3－7）論理的思考 力, 概念的思考力	☐	☐	☐	☐	☐
3－8）一般的な課題 の発見・解決能力	☐	☐	☐	☐	☐

22. 問12-2-4. 実社会でどの程度必要だと思いますか（態度・姿勢） *

1行につき1つだけマークしてください。

	大変必要 であると思 う	やや必要 であると思 う	どちらと もいえな い	あまり必要 でないと思 う	全く必要 ないと思 う
4－1）社会の諸問 題に関心を持つ	☐	☐	☐	☐	☐
4－2）自律的な学 ぶ姿勢	☐	☐	☐	☐	☐
4－3）他者と協働 する姿勢	☐	☐	☐	☐	☐
4－4）地域社会に 貢献しようとする態 度	☐	☐	☐	☐	☐
4－5）国際社会に 貢献しようとする態 度	☐	☐	☐	☐	☐
4－6）多様性を理 解する態度・姿勢	☐	☐	☐	☐	☐
4－7）良識（モラ ル・倫理観・責任 感）	☐	☐	☐	☐	☐

問13. あなたにとって，新潟大学に進学した理由は何ですか。

23. *

1行につき1つだけマークしてください。

	大変当 てはま る	やや当 てはま る	どちらと もいえな い	あまり当て はまらない	まったく当て はまらない
1. 国立大学だから	☐	☐	☐	☐	☐
2. 地元の大学だか ら	☐	☐	☐	☐	☐
3. 授業料が安いか ら	☐	☐	☐	☐	☐
4. 自分の学力に合 っていたから	☐	☐	☐	☐	☐
5. 希望する学部が あったから	☐	☐	☐	☐	☐
6. 幅広い知識や教 養が身につくから	☐	☐	☐	☐	☐
7. カリキュラムが 充実しているから	☐	☐	☐	☐	☐
8. 就職率が高いか ら	☐	☐	☐	☐	☐
9. 資格や免許の取 得に有利だから	☐	☐	☐	☐	☐

24. 上記以外で新潟大学に進学した理由がありましたらお書きください。

問14. あなたは，新潟大学を卒業したことに満足していますか。

25。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ 大変満足している
- ☐ やや満足している
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり満足していない
- ☐ 全く満足していない

28。 問16-2. 上記を選択した理由を教えてください。

問15. 新潟大学の実社会での評価は高いと思いますか。

26。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ 大変そう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ 全くそう思わない

27。 問16-1. あなたは卒業後に、大学でもう一度学んでみたいと思いますか。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ 大変そう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ 全くそう思わない

29. 問16-3-1. どのような内容を学びたいと思いますか。 *

1行につき1つだけマークしてください。

	大変 と思う	やや と思う	どちら もいえ ない	あまり 学び たいと 思わ ない	全く 学び たい と思 わな い
人文学分野（文学，哲 学，歴史，心理など）	☐	☐	☐	☐	☐
法学分野（政治，行 政，法律など）	☐	☐	☐	☐	☐
経済・経営学分野（経 済，会計，組織，マ ーケティングなど）	☐	☐	☐	☐	☐
教育学分野（学校教育 など）	☐	☐	☐	☐	☐
理学分野（数学，物 理，化学など）	☐	☐	☐	☐	☐
工学分野（機械，建築 など）	☐	☐	☐	☐	☐
農学分野（食品，農業 技術など）	☐	☐	☐	☐	☐
医療・生命科学分野	☐	☐	☐	☐	☐
AI・データサイエンス 分野	☐	☐	☐	☐	☐
語学（外国語）分野	☐	☐	☐	☐	☐
教養全般（人文社会科 学系）	☐	☐	☐	☐	☐
教養全般（自然科学 系）	☐	☐	☐	☐	☐

30. 問16-3-2. 上記以外で学びたい内容がありましたらご記入ください。

31. 問16-4-1. どのような形式であれば学びたいと思いますか。 *

1行につき1つだけマークしてください。

	大変 学び たい と思 う	やや 学び たい と思 う	どちら もい えな い	あまり 学び たい と思 わ ない	全く 学び たい と思 わ な い
1コマ90分程度の授業 （単発のイベント・ 公開講座）	☐	☐	☐	☐	☐
計5回程度の授業（連 続講座）	☐	☐	☐	☐	☐
週1回×15回程度の授 業（単一科目の履 修）	☐	☐	☐	☐	☐
ある程度まとまった 単位数のプログラム （一定の学びが証明 されるプログラム）	☐	☐	☐	☐	☐
学位（修士号など） の取得	☐	☐	☐	☐	☐

32. 問16-4-2. 上記以外で希望される形式がありましたらご記入ください。

33。 問16-5-1. どのような開講形態であれば学びたいと思いますか。 *

1 行につき 1 つだけマークしてください。

	大変学び たいと思 う	やや学び たいと思 う	どちらと もいえな い	あまり学び たいと思 わない	全く学び たいと思 わない
対面	☐	☐	☐	☐	☐
オンライン（リ アルタイム型）	☐	☐	☐	☐	☐
オンライン（動 画配信）	☐	☐	☐	☐	☐

34。 問16-5-2. 上記以外で希望される開講形態がありましたらご記入ください。

35。 問16-6-1. どのような時間帯であれば学びたいと思いますか？ *

1 行につき 1 つだけマークしてください。

	大変学び たいと思 う	やや学び たいと思 う	どちらと もいえな い	あまり学び たいと思 わない	全く学び たいと思 わない
平日昼	☐	☐	☐	☐	☐
平日夜	☐	☐	☐	☐	☐
土日	☐	☐	☐	☐	☐

36。 問16-6-2. 上記以外で希望される時間帯がありましたらご記入ください。

問17. 新潟大学の教育に対するご意見・要望等がありましたら，自由に記述してください。

37。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

新潟大学卒業生状況調査

本調査は、新潟大学卒業生について、企業等の皆様から、卒業生が身につけた知識・能力が社会でどのように評価されているのか、また、実社会でどの程度必要とされているのか等を検証する目的で調査を実施するものです。今回は、過去5年間（平成29（2017）年度から令和3（2021）年度）の採用実績が5人以上の企業等をお願いしています。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒、ご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。ご担当部署内で回答される方が把握されている範囲でのお答えで差し支えありません。

なお、調査結果につきましては、すべて統計的にデータ処理され、個別機関の回答が特定されることのない形で、本学教育・学生支援機構ホームページで令和4年5月頃に公表する予定です。また本調査の回答結果について、上記の目的以外には一切使用しないことを申し添えます。

令和4年1月
新潟大学

本調査票への記入に当たって、あらかじめご留意いただく事項

- ◆ 本調査は、「Ⅰ 貴社（庁、所、行、院）の概要について」及び「Ⅱ 新潟大学卒業生について」があります。それぞれ、調査票に記載の指示に従い回答くださるようお願いいたします。
- ◆ 調査票中の日付は、回答日現在の日付をご記入くださるようお願いいたします。
- ◆ 記入は、黒または青のボールペンか鉛筆をお願いいたします。
- ◆ 回答・記入済みの本調査票は、令和4年1月31日までに、同封の返信用封筒（切手の貼付は不要です）に入れて投函してください。
- ◆ なお、本調査に関する「問い合わせ等」につきましては、お手数ですが下記までお願いいたします。

新潟大学 教育・学生支援機構 キャンパスライフ支援センター
キャリア・就職支援オフィス

〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町8050

TEL: 025-262-6087

FAX: 025-262-7579

Eメール: shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

電話受付時間: 平日 9:00から16:30まで

それでは、以下の質問事項にお答えください

貴社（庁、所、行、院）に就職した、新潟大学卒業生（学部卒業生及び大学院修了生）について、ご記入ください。

I 貴社（庁、所、行、院）の概要について（令和 年 月 日現在）

1. 貴社名				
2. 所在地 〒				
3. 回答者	所属	役職	氏名	電話
— —				
4. 業種（該当する業種を○で囲んでください。）				
1. 農業、林業	2. 漁業	3. 鉱業、採石業、砂利採取業		
4. 建設業	5. 製造業	6. 電気・ガス・熱供給・水道業		
7. 情報通信業	8. 運輸業、郵便業	9. 卸売業、小売業		
10. 金融業、保険業	11. 不動産業、物品賃貸業	12. 学術研究、専門・技術サービス業		
13. 宿泊業、飲食サービス業	14. 生活関連サービス業、娯楽業	15. 教育、学習支援業		
16. 医療、福祉	17. 複合サービス事業	18. サービス業（他に分類されないもの）		
19. 公務	20. その他（	）		

II 新潟大学卒業生について（令和 年 月 日現在）

1. 新潟大学卒業生の回答日現在の在職者数について、お答えください。なお、（ ）の中には、大学院修了生について内数で記入してください。												
				人	（				人）			
2. 過去3年間の新潟大学卒業生の新卒採用者数及び回答日現在の在職者数について、以下の表に基づきお答えください。												
事 項	令和3年度 (2021年度)				令和2年度 (2020年度)				令和元年度 (2019年度)			
A 新卒採用者のうち 新潟大学卒業生				人				人				人
B Aのうち在職者				人				人				人

3. 以下のそれぞれの項目について、新潟大学卒業生の知識や能力はどの程度身につけている印象をお持ちですか。また、これらの知識や能力は実社会で活躍する上でどの程度必要だと思いますか。それぞれの項目について、該当する番号を1つ選び、○をつけてください。										
	3の1 新潟大学卒業生の知識・能力					3の2 実社会でどの程度必要か				
	身につけている	ある程度身につけている	どちらともいえない	あまり身につけていない	身につけていない	大変必要である	やや必要である	どちらともいえない	あまり必要でない	全く必要でない
知識・理解										
幅広い教養的な知識（人文社会科学系の知識）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
幅広い教養的な知識（数理系・自然科学系の知識）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
卒業生自身の専門分野における知識	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
当該分野固有の能力										
卒業生自身の専門分野にかかわる技能（スキル）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
卒業生自身の専門分野にかかわる問題解決能力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
汎用的な能力										
日本語による文章表現力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
コミュニケーションおよび議論する力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
外国語	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
データサイエンスのスキル・リテラシー（統計やAI等を用いた高度なデータ解析）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
ICTのスキル・リテラシー（一般的PC、Office等のソフトの活用）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
情報リテラシー（一般的な情報収集・分析・整理・発信）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
論理的思考力、概念的思考力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般的な課題の発見・解決能力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
態度・姿勢										
社会の諸問題に関心を持つ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自律的な学ぶ姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
他者と協働する姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
地域社会に貢献しようとする態度	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
国際社会に貢献しようとする態度	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
多様性を理解する態度・姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
良識（モラル・倫理観・責任感）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

4. 今後、(個別の卒業生ではなく)新潟大学に対して、どのようなことを期待していますか。 以下の項目のそれぞれについて、該当する番号を1つ選び、○をつけてください。					
※本学では2030年という未来におけるあるべき姿をビジョンとして描き、そのビジョンに向けた道筋を目標として掲げています。その中で、教育・学生支援ビジョンとして、主に以下項目を掲げています。 詳しくは本学ホームページから確認できます。 <u>ホーム>大学案内>新潟大学について>理念・ミッション・ビジョン</u> <u>>新潟大学将来ビジョン2030>教育・学生支援ビジョン</u> https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/vision/vision2030/	大変期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	全く期待していない
1) 文理にわたる幅広い学びを得られる教育の充実	5	4	3	2	1
2) 専門教育の充実	5	4	3	2	1
3) 実社会の課題解決につながる学びや経験の充実	5	4	3	2	1
4) デジタルを十分に活用した学びの充実	5	4	3	2	1
5) 大学院教育の充実	5	4	3	2	1
6) 多様な学生が安心して学べる学生支援の強化	5	4	3	2	1
7) 進路・キャリア形成支援の充実	5	4	3	2	1
8) 研究水準の高度化	5	4	3	2	1
9) 産学連携による共同研究開発などの体制強化	5	4	3	2	1
10) グローバル化への取組	5	4	3	2	1
11) 地域社会・企業のリーダー的人材の育成・輩出	5	4	3	2	1
12) 起業家精神のある人材の育成・輩出					
13) 学長のリーダーシップを発揮した大学運営					
他に、新潟大学に期待する事柄がありましたら右の欄に記載してください	[]				

Ⅲ 従業員の学び直しについて

1. 貴社(庁、所、行、院)の従業員の能力・知識向上や視野拡大のために、卒業後に大学で もう一度学んでほしいと思いますか? 1. 大変そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない
2. 上記を選択した理由を教えてください。(任意)

3. 1 「従業員にもう一度学んでほしいか」で、「1. 大変そう思う」「2. ややそう思う」と回答された方にお聞きします。(以下、3の1, 2, 3, 4)

3の1 どのような内容を学んでほしいと思いますか。

	大いに学んでほしい	やや学んでほしい	どちらともいえない	あまり学んでほしいと思わない	全く学んでほしいと思わない
1) 人文学分野 (文学, 哲学, 歴史, 心理など)	5	4	3	2	1
2) 法学分野 (政治, 行政, 法律)	5	4	3	2	1
3) 経済・経営学分野 (経済, 会計, 組織, マーケティングなど)	5	4	3	2	1
4) 教育学分野 (学校教育など)	5	4	3	2	1
5) 理学分野 (数学, 物理, 化学など)	5	4	3	2	1
6) 工学分野 (機械, 建築など)	5	4	3	2	1
7) 農学分野 (食品, 農業技術など)	5	4	3	2	1
8) 医療・生命科学分野	5	4	3	2	1
9) AI・データサイエンス分野	5	4	3	2	1
10) 語学 (外国語) 分野	5	4	3	2	1
11) 教養全般 (人文社会科学系)	5	4	3	2	1
12) 教養全般 (自然科学系)					
13) その他 ()					

3の2 どの程度の授業・プログラムを希望しますか。

	大いに希望する	やや希望する	どちらともいえない	あまり希望しない	全く希望しない
1) 1コマ90分程度の授業 (単発のイベント・公開講座)	5	4	3	2	1
2) 計5回程度の授業 (連続講座)	5	4	3	2	1
3) 週1回×15回程度の授業 (単一科目の履修)	5	4	3	2	1
4) ある程度まとまった単位数のプログラム (一定の学びが証明されるプログラム)	5	4	3	2	1
5) 学位 (修士号など) の取得	5	4	3	2	1
6) その他 ()					

3の3 どのような開講形態を希望しますか。

	大いに希望する	やや希望する	どちらともいえない	あまり希望しない	全く希望しない
1) 対面	5	4	3	2	1
2) オンライン（リアルタイム型）	5	4	3	2	1
3) オンライン（動画配信）	5	4	3	2	1
4) その他（					）

3の4 どのような開講の時間帯を希望しますか。

	大いに希望する	やや希望する	どちらともいえない	あまり希望しない	全く希望しない
1) 平日昼	5	4	3	2	1
2) 平日夜	5	4	3	2	1
3) 土日	5	4	3	2	1
4) その他（					）

その他、新潟大学に対するご意見・ご要望等がございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。